

マードーミステリー

『皆既月食 -but not Lunar Eclipse-』

プロローグ

その神社には不死の秘術が伝わっている――。

S県の山間部。獣道すら存在しない樹海をかき分けた先に、怪しげな与太話がささやかれる社がある。地図上の名前は「**旧荒鬼神社（ぐあらきじんじゃ）**」。美しい乳白色の湖に隣接した、歴史を感じさせる霊堂だ。

伝承によれば、19年に1度やってくる「**儀式の夜**」、その神社では1人の「**不死者**」が誕生する。不死者の傷口は念じた途端に塞がり、首を切り落とされても生きていられるという。

儀式の前日、5人の参拝者が「不死の秘術」を求めてこの神社に到着した。1人は"神話"に魅入られた**民俗学者**。1人は世界の宝とされる**作曲家**。1人は救いの道を究めんとする**医師**。1人は生命のルーツを探る**海洋研究者**。1人は永遠の美貌を夢見る**グラビアアイドル**。

:

①**民俗学者（外見の年齢：35歳～45歳）**

私は**民俗学者**の〇〇。土着の神話を求めて日本全土を渡り歩くフィールドワーカーだ。学者というより旅人のような生活をしていて、もう何十年も自分の研究室に帰っていない気がするよ。「不死の秘術」の使い道？ 考えたこともなかったな。私はただ、その背景に潜む“超常の存在”をこの目で見たいだけさ。

②**作曲家（外見の年齢：25歳～35歳）**

ワタクシは……まあ、名乗るまでもないでしょうが、世界的大スタアの〇〇と申します。天命は**作曲家**兼歌手です。「不死の秘術」……それはそれは魅力的な響きですわね。そのような奇跡が存在するのなら、ワタクシのような“優れた人間”を生かすために使うべきでしょう？ ワタクシの死はそこの凡人の命とは比較にならない世界の損失なのですから。

③**医師（外見の年齢：30歳～40歳）**

僕は〇〇。臓器手術が専門の**医師**だ。できるだけ多くの命を救うことが自分の使命だと思っている。「不死の秘術」がもしも実在するのなら、医学転用の可能性を探りたい。だけどその前に、まずは自分が不死になろうと思う。永遠に救いを与え続ける存在……。それが禁忌だと理解はしているよ。

④海洋研究者（外見の年齢：20歳～30歳）

海洋研究者の〇〇ってモンだ。漁村で生まれ育った俺は、海の怖さも、偉大さも、神秘性もよく知ってる。俺は母なる海の研究を通じて「生命のロマン」を感じたい。べつに長生きしたいとは思わねえけど「不死の秘術」には興味あるぜ。だってめちゃくちゃロマンだろ？

⑤グラビアアイドル（外見の年齢：15歳～25歳）

私、〇〇です。グラビアアイドルやってます。まあ、今は「アンチエイジングYouTuber」って肩書きの方が有名かも知んですが。ここに来た目的ですか？ 世間では「15年見た目が変わらない奇跡の女」なんて言われてますが、注射と整形で誤魔化すのも限界で……。あ、これオフレコでお願いしますよ！ 怒られるので！

：

それぞれ樹海を抜けてこの神社にたどり着いたあなたたち5人は、巫女と神主の親子に迎えらる。巫女の外見は**20歳**、神主は**40歳**ほどだろうか。儀式の前夜、あなたたちは離れの客間にもてなされ、揃って説明を受けていた。

「みなさまの求める**不死の秘術**はたしかに存在します」「ですが、不死の秘術——**ぐあきさまの寵愛**を受けられる方は1人だけです」「みなさまには不死者となる方を投票で決めていただきます」「儀式は明日の夕刻。満月が昇ると共に開始いたします」。

：

果たして、あなたが願う神秘は実在するのか？ 狂気が死体を積み上げる、あるいは“誰も死なずに終わりを迎える”、数奇な物語が幕を開ける。

【本シナリオの説明】

- ・プレイ時間は3時間～4時間を想定しています。
- ・若干グロテスクな表現が含まれます。
- ・全員が嘘をついてOKです。
- ・キャラクターの性格は自分好みに改変してください（矛盾しない範囲で）。ロールプレイを楽しみましょう。
- ・ハンドアウトは他のプレイヤーに決して見せないでください。